

中堅企業向け SAP R/3[®] による ERP ソリューション

ERP Solution for Midsize Enterprises Incorporating SAP R/3[®] Package

大沼 章一

■ OHNUMA Shoichi

有川 雄二

■ ARIKAWA Yuji

今日の中堅企業の置かれた経済環境は非常に厳しく、経営課題の解決のために ERP (Enterprise Resource Planning) ソリューションの導入は必須要件となっており、低コストでしかも短期間で投資効果が判断できることが求められている。

東芝ソリューション(株)は、SAP社のR/3[®](注1)パッケージをコアに顧客ニーズをパラメータにセットしたテンプレートを開発し、それに帳票作成支援ツールと伝票自動入力ツールを独自開発して組み込んだ、中堅企業向け ERP ソリューション WorkVisionTMを商品化した。

With Japanese midsize enterprises facing a very severe business environment today, the introduction of an enterprise resource planning (ERP) solution is essential for them to solve business problems. Such companies place strong emphasis on the cost performance of the ERP solution to be introduced, and also want a quick return on their investment.

Toshiba Solutions Corp. has released an ERP solution called WorkVisionTM for these enterprises. WorkVisionTM incorporates a SAP R/3[®] ERP package and will fully satisfy the user's ERP needs.

1 まえがき

年間の売上規模が100億円から1,000億円の企業(以下、中堅企業と呼ぶ)において、ERP(Enterprise Resource Planning)ソリューション導入の機運が高まっている。この背景には、ビジネス環境の変化のスピードに適応していくための経営戦略と意思決定の迅速化の要求がある。また、システムの導入にあたっては、低コストでかつ短納期であることが求められている。

東芝ソリューション(株)では、このような顧客ニーズに応えることを目的として、これまでの導入実績で培ったノウハウをベースに、中堅企業向けERPソリューション WorkVisionTMを商品化した。

ここでは、初めに、中堅企業の直面する課題とその解決策を示し、続いて、中堅企業向けERPソリューションでのシステム構築の狙いとその機能概要について述べる。

2 中堅企業の経営課題

中堅企業が今日の厳しい経済環境に対して抱える問題を、経営という切り口から外部環境と内部環境とに分けて整理する。外部環境とは企業を取り巻く環境であり、内部環境と

は企業の各部署での活動や環境である。

2.1 外部環境での課題

外部環境に対して企業が直面している課題の一つに経営のスピード化がある。経営のスピード化とは、経営に対する意思決定のスピードであり、経営状態を迅速かつ正確に把握し経営戦略にフィードバックする速さを言う。現状では、月次単位での決算や固定した単位(事業部単位など)での収益集計など、意思決定を支援する情報が必要なときに即座に見られない。このため、外部から要求が高まっている決算の早期開示や四半期決算には対応できないという問題がある。

2.2 内部環境での課題

企業内の各部署では、各種経費節減のために効率化などの対策を行っている。しかし、その一方で、作業の標準化やシステム化が十分でなく、月末と月初の繁忙期における作業時間はかえって増加しているのが現実である。

現状の基幹システムについては、新機能の追加時に対応費用の増加を招くことや、オープン化が進むことによって、アプリケーション開発要員が十分に確保できないといった問題がある。また、複数の業務システムによって構成される基幹システムでは、各システム間のデータ連携に際してインタフェースなどの問題により、データの二重入力が発生したり、データのリアルタイム反映が行えないという問題が発生している。また、事業部や部署などの組織変更や新しい業務プロセスの追加が発生した場合は、システムを短時間で容易に

(注1) SAP R/3は、ドイツ及びその他の国々におけるSAP AGの登録商標。

変更できないので、経営自体に大きな影響を与えている。

2.3 これらに対する解決策

企業が抱えるこれらの問題を解決するには、現状の無理、むだの排除や、企業としてのあるべき業務プロセスを取り込む業務改革が必要となる。

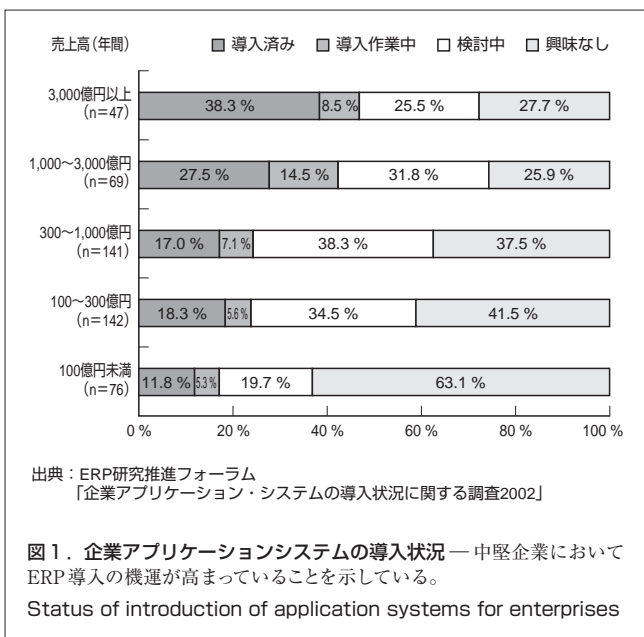
業務プロセスの改革は、次のことにより達成できると考える。

- (1) 現在の業務を見直して簡素化、単純化させる。
- (2) 個別に構築されている業務システムを統合し、多数の業務プロセスに柔軟かつ迅速に対応させる。
- (3) 取り扱うデータを一元管理する。

上記に加え、低コストで短納期にシステムを導入するには、ERPソリューションに基づく考え方がもっとも適しており、最重要視されるようになってきた。

3 ERPソリューションでシステム構築する狙い

現在、経済環境が厳しいと言われるなかで、ERPソリューションによるシステム構築を前向きに検討している企業は多い。特に、中堅企業では、バブル期に構築された基幹システムを稼働させている企業が多く、これらの企業では、経営スピードを改善するためにシステムをERPソリューションで再構築するニーズが高まってきている。中堅企業を取り巻く環境が、顧客ニーズの多様化、新規企業の参入、経費節減などにより厳しさを増してきていることと、ERPソリューション導入への理解が高まってきたからである。企業の売上規模別のERPソリューション導入状況を図1に示す。

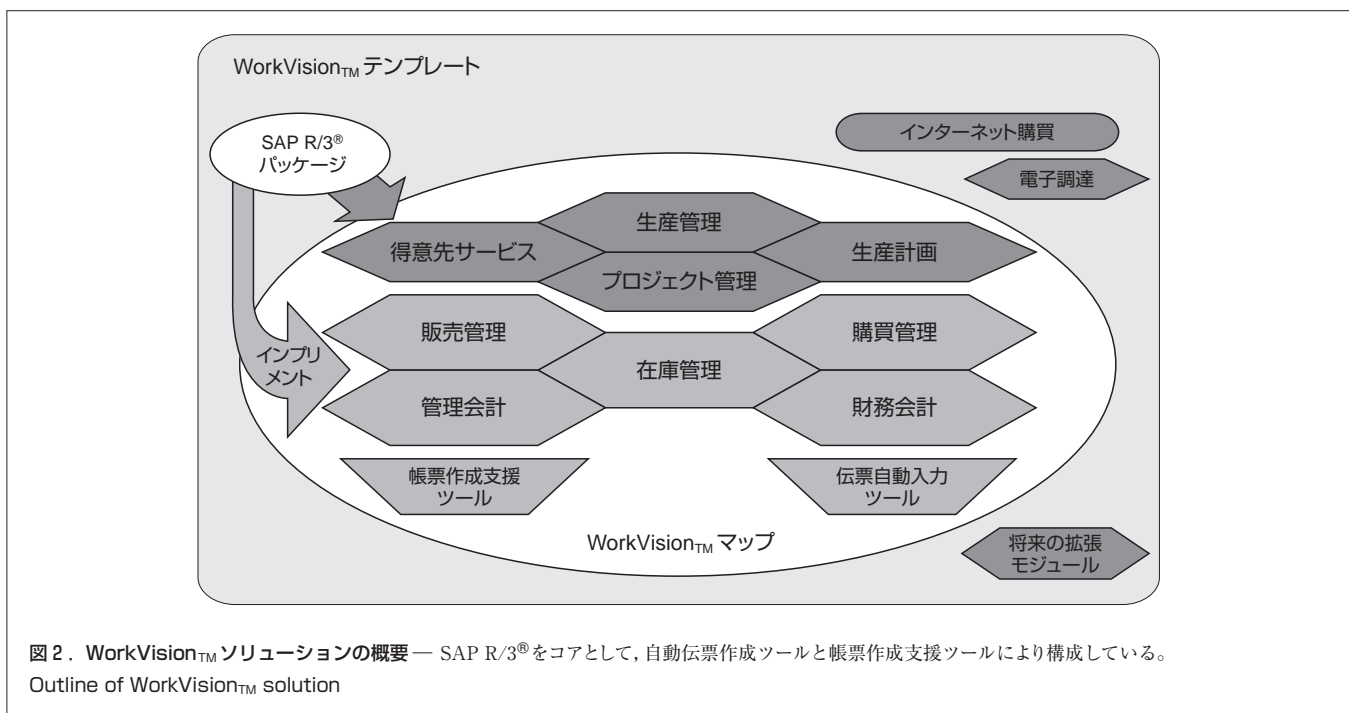


ただし、中堅企業でのERPソリューション導入は、低コストを第一とし、投資効果がすぐに現れるものでなければならない。

4 WorkVision™の機能概要

東芝ソリューション(株)は、SAP R/3®パッケージ(以下、SAP R/3®と略記)に顧客ニーズを反映した中堅企業向けERPソリューションWorkVision™を開発、商品化した。

WorkVision™は、SAP R/3®の財務会計、管理会計、販売



管理、在庫管理、購買管理のモジュールと、独自開発した伝票自動入力ツール及び帳票作成支援ツールから構成されている(図2)。基幹システムにERPソリューションを導入する場合に、企業のニーズに合うよう、SAP R/3®の各モジュールにパラメータが実装される。このとき、あらかじめ中堅企業の標準モデルを想定しパラメータをテンプレート化したものが、WorkVision™である。また、SAP R/3®の生産管理、プロジェクト管理、SCM(Supply Chain Management)、CRM(Customer Relationship Management)、PLM(Product Lifecycle Management)などのモジュールは稼働後に追加構築できるよう、拡張性や柔軟性にも十分配慮されている。

ここでは、このWorkVision™のコンセプトと機能の概要について述べる。

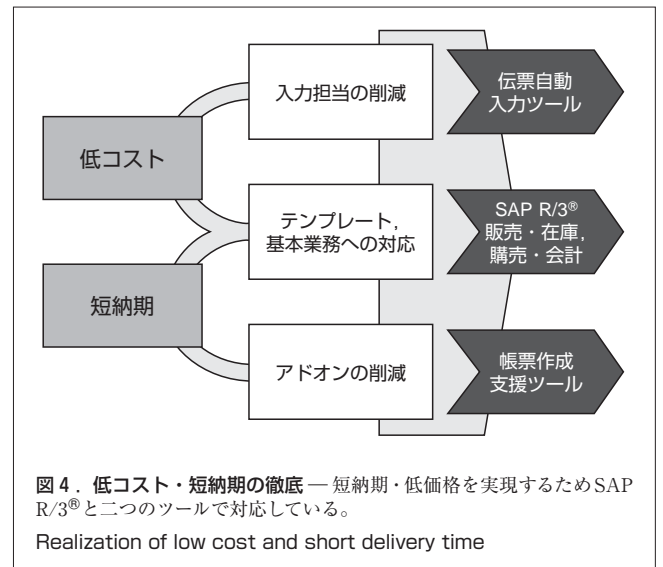
4.1 WorkVision™のコンセプト

WorkVision™は、中堅企業の財務会計、管理会計、販売管理、在庫管理、購買管理といった基本機能を最初に構築し、導入企業が安定稼働を実感した後、SAP R/3®の生産管理やプロジェクト管理など、そのほかのモジュールを段階導入するという導入メソッドロジーをコンセプトとしている。

基幹業務すべてを対象とする導入方法(ビッグバン型導入)では、使用するERPパッケージシステムの特徴を顧客が十分理解したうえで導入検討を行わないと、パッケージに対しむやみに機能追加が発生し、結果として開発費の増加や稼働後の混乱を招きやすい。段階導入では、初期コストの低減や開発リスクを最小限に抑えられるメリットがある(図3)。

4.2 帳票作成支援ツールと伝票自動入力ツール

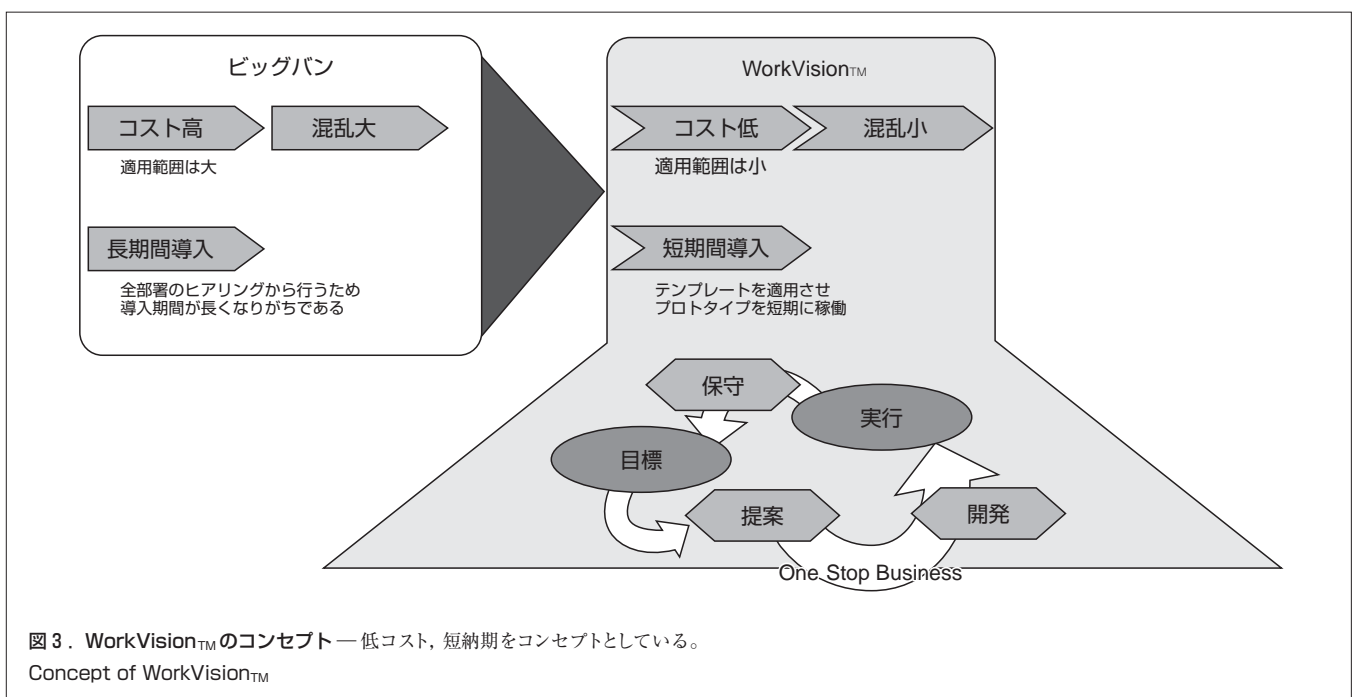
WorkVision™では、帳票作成支援ツールと伝票自動入力

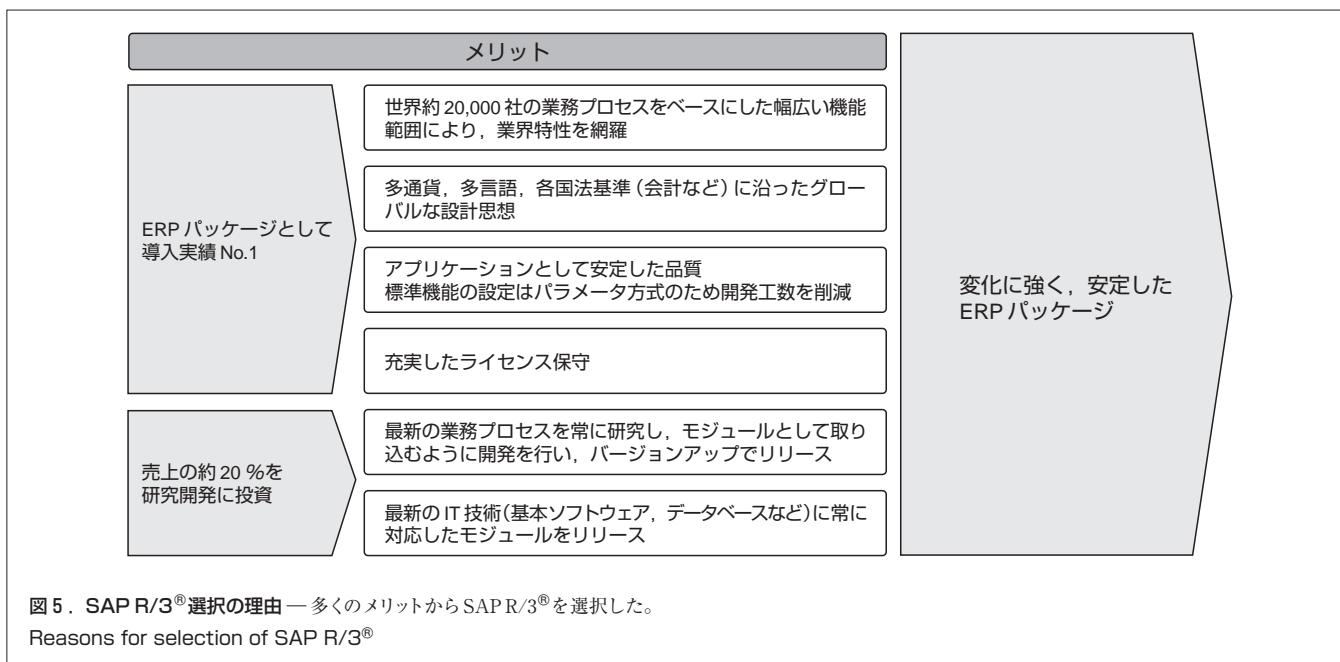


ツールを独自開発し、提供している。帳票作成支援ツールは、見積書などの指定伝票の書式を自社のやり方に合わせたいとの要望に応えたもので、エンドユーザーコンピューティングで、ユーザーが伝票の書式をメンテナンスできるように配慮されている。

また、伝票自動入力ツールは、伝票データの入力を既存のパソコンから行いたいとの顧客の要望に応えたものであり、パソコンでExcelなどを使って伝票を作成すると、自動的にSAP R/3®へ入力できるツールである。

これらのツールにより、専任の入力担当者としてアドオン開発を削減することが可能となった(図4)。





4.3 SAP R/3® を採用した理由

WorkVision™ に、SAP R/3® を採用した理由は次のとおりである(図 5)。

- (1) 財務管理から人事給与まで、ほとんどすべての業務プロセスを包含し、拡張性と保守性に優れた統合システムである。
- (2) 多種多様な業務プロセスのベストプラクティスを多数保有し、企業固有のニーズに柔軟に対応できる。
- (3) 世界で 20,000 社が導入した実績があり、信頼性が高い。
- (4) BPR (Business Process Reengineering) を目的とし、企業のローコストオペレーションが実現できる。
- (5) 最新の IT (情報技術) に基づくベストプラクティスとソリューションがタイムリーに提供される。

5 あとがき

従来、企業の基幹システムの多くは、財務会計や在庫管理、購買管理、販売管理などの基本機能の範囲で構築されてき

た。中堅企業の置かれた厳しい経済環境を克服するため、更に SCM, CRM といった業務を取り込んだ拡張性と柔軟性の高いシステムが要求されている。WorkVision™ は、このことを踏まえ、他システムとの連携がスムーズに行えるように構築されており、これによって、顧客のニーズを超えた事業展開が可能となった。

今後も、常に市場を先取りした ERP ソリューションを提供することにより、顧客満足度のあくなき向上を目指していく。



大沼 章一 OHNUMA Shoichi

東芝ソリューション(株)ソリューション第 4 事業部 SAP 技術・システム構築部グループ長。中堅企業向け ERP ソリューションの企画立案と開発業務に従事。
Toshiba Solutions Corp.



有川 雄二 ARIKAWA Yuji

東芝ソリューション(株)ソリューション第 4 事業部 SAP 技術・システム構築部参事。中堅企業向け ERP ソリューションの企画立案と開発業務に従事。
Toshiba Solutions Corp.